

サンタクロースはいるんだ

Yes, Virginia. There is a Santa Claus.



ニューヨーク・サン新聞 社説

大久保ゆう 訳

ニューヨーク・サン新聞 1897年9月21日 社説欄

## サンタクロースはいるの？

本紙は、以下に掲載される投書に対してただちにお答え  
申し上げるとともに、このようにまっすくな方が読者に  
おられることを、心から嬉しく思います。

こんにちは、しんぶんのおじさん。

わたしは8さいのおんなのこです。じつは、ともだちがサンタクロースはいないというのです。パパは、わからないことがあったら、サンしんぶん、というので、ほんとうのことをおしえてください。サンタクロースはいるのですか？

ヴァージニア・オハンロン

ヴァージニア、それは友だちの方がまちがっているよ。きっと、何でもうたがいたがる年ごろで、見たことがないと、信じられないんだね。自分のわかることだけが、ぜんぶだと思ってるんだろう。でもね、ヴァージニア、大人でも子どもでも、何もかもわかるわけじゃない。この広いうちゅうでは、にんげんって小さな小さなものなんだ。ぼくたちには、この世界のほんの少しのことしかわからないし、ほんとのことをぜんぶわかろうとするには、まだまだなんだ。

じつはね、ヴァージニア、サンタクロースはいるんだ。愛とか思いやりとかいたわりとかがちゃんとあるように、サンタクロースもちゃんというし、そういうものがあふれているおかげで、ひとのまいにちは、いやされたりうるおったりする。もしサンタクロースがいなかったら、ものすごくさみしい世の中になってしまう。ヴァージニアみたいな子がこの世にいなくなるくらい、ものすごくさみしいことなんだ。サンタクロースがいなくてことは、子どものすなおな心も、つくりごとをたのしむ心も、ひとを好きって思う心も、みんなないってことになる。見たり聞いたりさわったりすることでしかたのしめなくなるし、世界をいつもあたたかくしてくれる子どもたちのかがやきも、きえてなくなってしまうだろう。



サンタクロースがいないだなんていうのなら、ようせいもいないっていうんだろうね。だったら、パパにたのんで、クリスマスイブの日、えんとつというえんとつぜんぶを見はらせて、サンタクロースをまちぶせしてごらん。サンタクロースが入ってくるのが見られずにおわっても、なんにもかわらない。そもそもサンタクロースはひとの目に見えないものだし、それでサンタクロースがいないってことにもならない。ほんとのほんとうっていうのは、子どもにも大人にも、だれの目にも見えないものなんだよ。ようせいが原っぱであそんでいるところ、だれか見たひとっているかな？ うん、いないよね、でもそれで、ないってきまるわけじゃない。世界でだれも見ることがない、見ることができないふしぎなことって、だれにもはっきりとはつかめないんだ。

あのガラガラっておもちゃ、中をあければ、玉が音をならしてるってことがわかるよね。でも、目に見えない世界には、どんなに力があっても、どれだけたばになってかかっても、こじあけることのできないカーテンみたいなものがかかっているんだ。すなおな心とか、あれこれたくましくすること・したもの、それから、よりそう気もちや、だれかを好きになる心だけが、そのカーテンをあけることができ、そのむこうのすごくきれいですてきなものを、見たりえがいたりすることができる。うそじゃないかって？ ヴァージニア、いつでもどこでも、これだけはほんとうのことなんだよ。

サンタクロースはいない？ いいや、今このときも、  
これからもずっといる。ヴァージニア、何ぜん年、いや  
あと10万年たっても、サンタクロースはいつまでも、子  
どもたちの心を、わくわくさせてくれると思うよ。

---



**Original Text: The New York Sun "Yes, Virginia, There is a Santa Claus" (1897)**  
**Original Writer: Virginia O'Hanlon & Francis Pharcellus Church**

## サンタクロースはいるんだ

<http://p.booklog.jp/book/39392>

著者：ニューヨーク・サン新聞

訳者：大久保ゆう

訳者twitter：@bsbakery

発行：Alz

発行元情報：<http://p.booklog.jp/users/alz/profile>

※この翻訳は「クリエイティブ・コモンズ 表示 2.1 日本 ライセンス」  
(<http://creativecommons.org/licenses/by/2.1/jp/>) によって  
公開されています。上記のライセンスに従って、訳者に断りなく自由に  
利用・複製・再配布することができます。

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/39392>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/39392>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.